

## 西側の指導者たちは「馬鹿を演ずるのをやめるべきである」 ——プーチン

<https://www.rt.com/russia/589452-putin-western-nations-collapse/>

RT

December 21, 2023



ロシアが崩壊することはない。だからアメリカやその同盟国はその政策を変え  
るべきだ、とロシア大統領は言った。

ロシアが崩壊すると予想している西側諸国は、考え違いをしている。彼らはそれをやめて、  
協力することによって自分たちの経済を利するべきだ、と、木曜日、ウラジミール・プー  
チン大統領は、ある政府の会合で言った。

アメリカとその同盟者は、ウクライナ紛争を理由にロシアを処罰しようと、前代未聞の制  
裁を仕掛けてきた。しかしこの国は大きな柔軟性を示している、とロシア政府や西側の分  
析は言っている。プーチンはこの問題を「戦略的発展と国家プロジェクト協議会」の集会  
で取り上げ、ロシアの非西洋諸国との、ますます発展する取引の絆を説明した。しかし彼  
は、モスクワは西側に門戸を閉ざしたのではないと言った。

「(西側の指導者たちは)我々の崩壊を待つという馬鹿を演ずるのをやめるべきだ。誰も  
が、今になっては、もしロシアとの協力によって利益を得たければ、そうすべきことがわ  
かってきた」と大統領は言った。

西側諸国は 2 つの選択をしなければならない——ロシアの崩壊を促進するというような「一時的な軽はずみな考え」に立つか、「彼ら自身の国民国家の利益」を考えるかの選択であり、後者は、「多極的な世界という新しい基盤」に立って、協力を求めるものだとプーチンは言った。

モスクワは、ワシントンの指導する制裁運動への参加を拒否する国々との貿易に、方向を変えることによって、西側の経済的攻撃を乗り切ってきたが、拒否国にはアジアの大国である中国とインドが含まれた。

ロシアはまた、西側に支配される金融の諸制度に依存することを、減らす手段を講じてきたが、それは代替的な支払いの方法と国家通貨への、切り替えによってであった。火曜日の北京訪問のさい、ロシア首相のミハイル・ミシュースチンは、中国との貿易において、米国ドルはほとんど完全に入れ替わったと言った。

一方において、EU 諸国では、エネルギー価格が急騰したが、それはモスクワ依存による利益を抑えるために、EU がロシアの供給を拒否した結果と思われる。特に、ロシアのパイプラインの国家ガスは、主としてアメリカとカタールの産する、より高価な液化天然ガス (LNG) に置き換えられてしまった。ロシアはまた、ヨーロッパの LNG 供給者の中に入っていて、今年は配給量の記録を作ったと、今月初め、Kommersant は言っている。

EU トップの経済大国であるドイツの、何人かの工場オーナーは、オペレーショナル・コストの増加のために、閉鎖を強いられた。Credit の改革クレジット系の報告では、今月、18,100 のドイツの会社が、破産の手続きを行ったが、これは 2022 年に対し 23.5% の増加だという。

### [訳者 Greatchain 注]

「アメリカやその同盟国」の中に日本も入っている。だから、わが国とそのメディアたちも「馬鹿を演ずることをやめる」べきである。プーチンは明らかに、我々の損得勘定に訴えてこう言っている。我々は損得勘定よりも、むしろ国民の品格に訴えて、プーチン大統領には脱帽すべきである。脱帽すべきときに意地を張ってそれを拒否するのは、見苦しいだけである。

私は何年も前からプーチン氏の言動には極力、注目してきた。これは前にも言ったことだが、プーチン氏の言行録のもたらす印象は、きまって「ホッとすることである。彼はウソを言わず、大言壮語もせず、正直な評論家のように物を言っている。そして礼儀

正しく、何よりわかり易い。この「馬鹿を演ずるのをやめよ」stop playing the fool できえ、諧謔に満ちた、やさしい言い方ではないか？　こういうふうにする人々が、日本人にも外国人にもほとんどおらず、しかも言っていることがわからないので、これを聞いてホッとするのである。しかも彼は、現実には、日常的に命を狙われている（これはアメリカのトランプも同じだ）。にもかかわらず、彼は自分の立場を説明し、他者のあるべき立場を言ってくれる。脱帽ではないか？

もしプーチン大統領が、「領土的野心などない、この広いロシアをこれ以上広げる必要はない」と言えば、その通りだと信じることができる。しかし、現在のアメリカの民主党グローバリストの政治家がそんなことを言えば、それは真逆のことを言っていると、保証することができる。プーチンの正直さと正確さは、ラヴロフ外相やザハロワ報道官についても言える。この人たちが真っ赤になって怒るときは、アメリカのウソについて怒るのである。話ができなくなるからだ。

こういうことを言う私を、信用できない男だという人があれば、「共和党ユダヤ人連合」に参加せよと誘われて、断った Mark Dankof なる人物の、手紙の一部を読んでみていただきたい：――

「私について言えば、私はアメリカ合衆国のための国民国家の主権を支持し、ヨーロッパ諸国、パレスチナ、イラン、リビア、レバノン、中国やその他の国の主権を支持する者だが、「私の最大の盟友」は誰かと言われるなら、それはウラジミール・プーチンだ。(ビクトリア) ニューランドの、2014年2月のキエフでのシオニスト・クーデタは、完全にバックファイアを起こしつつある。ゼレンスキーを見ていると恐ろしくなる。そして、シオニストによる地球人間の命の要求には、地獄に落ちろと言いたい、それによって落とされたすべて者と一緒に…。(SOTN:「イエスがもうすぐやってくる、そしてなんと、彼はカンカンに怒っているぞ」)

<https://www.vtforeignpolicy.com/2023/11/mark-dankof-to-kevin-mccarthy-and-the-republican-jewish-coalition-jesus-is-coming-soon-and-boy-is-he-pissed/>